

○感染予防対策緊急支援事業を活用した優良事例

〈滝川銀座商店街振興組合（滝川市）〉

■商店街の概要

滝川銀座商店街は、昭和 23 年に発足。国道 12 号、国道 38 号、国道 451 号の 3 線が交わる交通の要衝に位置する立地であることから、市外からの来街が多く、道のモデル商店街として指定された。

昭和 40 年代になると次々にデパートやスーパー等が開店し、アーケードの設置や歩道整備などで市内近郊から便利で毎日寄れる近代的な商店街へと発展した。

昭和 56 年 4 月に滝川銀座商店街振興組合を設立。88 組合員となり、長さ 400 メートルほどの商店街となった。

しかし、昭和 60 年代頃から高速道路の延伸と併せて、大型店舗が郊外に次々に出店。自動車の所有率も増加し、買い物の中心は郊外へと加速していった。

平成 3 年以降は、次々とテナントの撤退、デパートの倒産等により銀座周辺の衰退が加速していった。

令和 2 年度の会員数は、29 名。空き店舗 8、廃業及び自宅店舗 3、空き地 4。経営者の高齢化も進み、客層も 60 代以上が半数以上を占めている。アーケードの老朽化、後継者問題を抱えている。

〔商店街風景〕



■活動事業について

昭和 50 年に始まった「銀商大七夕まつり」は 30 年間続いたが、その後は組合員の減少や高齢化により、大規模なイベントは行えない状況。

組合としての事業は、街路美化事業としてフラワーポットの設置や新年会、夕食例会の組織強化事業、お得意様販促セールなどの街づくり販促事業を実施している。

近年、商店街連合会主催の事業参加など、広告効果の高い協同販促が中心となっている。

昨年度までは、日本ハムファイターズ応援ツアーを実施し、大変好評であったが、今年度はコロナの影響により、中止せざるおえない状況となっている。

■近年の出店状況

最近の注目すべき動きとしては、平成 27 年に若者向けセレクトショップの出店。平成 29 年には事業承継による若手が運営を引き継いだ店舗が出店している。市が実施している空き店舗等を活用する場合に、改修工事に要する経費を補助する「滝川市店舗リノベーション支援費補助金」の活動の呼びかけや、賃貸店舗のオーナーとの連携を目指し、出店しやすい環境作りを目指している。

近年は、フェイスブックの活用を行っている店舗もあり、若者の集客にも力を入れている。

新規の顧客獲得のために、QR コード決済の導入、各種カード、プリペイドカードの利用等、幅広いニーズに応えるよう対策を行っている店舗も増えてきている。QR コード決済は使用する店側からしても、手数料もかからず操作が簡単のため、導入しやすい。



〔PayPayの利用も可〕

■感染予防対策緊急支援事業の利用

令和2年に道の「中小・小規模事業者感染予防対策等緊急支援事業」を活用し、感染予防対策に取り組んでいる。

主な事業内容は、コロナウィルスの感染拡大防止対策のため、各組合員に対しマスク、アルコール消毒液、除菌ウェットティッシュ等の配布。組合員が安心して働ける環境の整備を行っている。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、組合員各店約20%前後売り上げが減少しており、消費者に対し注意喚起を行い、安全安心な環境でお買い物していただける街づくりを目指し、商店街や組合員各店の消費回復につなげていく。



〔店舗内での消毒液設置〕

■運営の課題・今後の展開

現在、最大の課題となっているのはハード面であり、国、道、市などの行政機関や商工会議所など他団体との連携を密にして、建物やアーケードの老朽化等の課題について、賃貸店舗オーナーを含めた中で、安心・安全な商店街を維持していきたい。

商店街への来街者をどのように呼び込むかが、課題となっている。かつてのようなお祭りやイベント以外でお客様に来ていただけるような事業等を今後企画していく予定。

幅広い方に商店街の良さを宣伝するためにも、協同広告や電子的媒体を含めたPRも、再度検討していく必要がある。

昔から変わらない人と人の交流の場、気軽にふらりと歩ける街、入店できる雰囲気を持していきたい。

空き店舗等を活用し、昔のような賑わいのある商店街となるには、今後も地域で連携を図り、取り組んで行く必要がある。



〔星野米穀店〕

取材先 ■ 滝川銀座商店街振興組合
 滝川市栄町3丁目 3-27
 TEL : 0125-23-2019 (星野米穀店内)